

た ま に 、 母 校 を 思 い 出 そ う

岡山白陵 忠高 同窓会報

発行：岡山白陵同窓会
〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588
TEL:086-995-1255



岡山白陵同窓会
三木寅吉先生<像>

第16号

平成22年12月25日



校舎全面建て替え
決定

記事P4~5

CONTENTS

ごあいさつ	2	11期を語ろう	8
26期同窓会報告	3	母校だより	
同窓会を開催しませんか.....	3	ディベート甲子園・地理オリンピック.....	10
新校舎完成予想図.....	4	あつ晴れ岡山国文祭「現代詩」	11
活躍する卒業生	6	生徒の活躍.....	11
4期生 北詰淳己 北詰塾		平成22年度進路実績	12
8期生 山本道代 (医)青木内科小児科医院 あいの里クリニック		住所変更のお願い・原稿募集.....	12
18期生 山脇康嗣 弁護士		編集後記	12
25期生 岩岡寛人 文部科学省			



会長
大津 正和
MASAKAZU OTSU

3分の1世紀が経過するにあたり

会長挨拶

今年も、岡山白陵同窓会報をお届けいたします。同窓会報発行にご努力いただいた、校内外の先生方、同窓会役員の方々、そして原稿をお寄せ下さった会員の皆さまにお礼申し上げます。また、ご協力下さった、校長先生はじめ岡山白陵の教職員の皆さまに感謝申し上げます。

今年の春には、岡山白陵高等学校からは第32期生が巣立ちました。月日の経つのは早いもので、私たち第1期生が卒業して、来春には、はや3分の1世紀が経過することになります。これまでの卒業生、つまり我々同窓会の会員数も4,700名を超えました。この多数の仲間たちが、日本全国はもとより、世界各地で様々な領域で活躍しています。私立学校の特徴として、日本全国から集まった若者が青春の一時期を同じ学舎で過ごし、そしてまた様々な場所へと旅立っていきます。このことは、同窓会運営上は、会員の皆さまとの連絡を困難とさせるというマイナス面を持っていますが、多様な会員を擁する同窓会を生み出すというプラスの面を持っています。同窓会員の皆さまには、同窓会に積極的に参加することで、このプラス面を活用していただきたいと思っております。例えば、自身と全く違った立場の人たちと、同窓会員という立場で、率直な情報交流に利用していただけたらと思います。

会員の皆さまは、それぞれの分野でご活躍のことと思っておりますが、新しいアイデアは、異なった考え方が結びついたときに生まれることが多いと思っております。イノベーション研究においても、画期的なイノベーションは既存業界の外部からもたらされることが多いということが示されています。それぞれの専門分野で深く掘り下げるといっても重要ですが、時には視点を変えて全く違う意見を聞いてみるということも有用なことだと思っております。同窓会は、そのような機会を提供できる組織です。そのような点で、同窓会を通じて、皆さまの人生にちょっと厚みを手に入れてもらえたらと希望しています。確かに、それぞれ勉強や仕事で忙しく、また距離的な隔たりも小さからぬ障害となるでしょうが、会員全体が盛り上げようという意識を持っていかないと、同窓会のようなボランティア組織は先細りになってしまうかねません。各期での集まりや同窓会誌への投稿といった簡単なところから、参加していただければと、お願いいたします。

新校舎建設に向かって

校長挨拶



校長
山本 隆文
TAKAFUMI YAMAMOTO

同窓会諸氏におかれましては、益々ご清栄にご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、岡山白陵は本年9月、中学生・高校生が学んでいる生徒棟を全面的に建て替えることに決定し、10月25日に全校生徒及び保護者に周知したところでございます。数年前より校舎の耐震診断・大規模改修が避けられぬ課題として浮上し、いろいろな観点から熟慮した結果、生徒棟は築後35年、25年とまだ建築年数は浅いものの、この際思い切って新築することいたしました。おおまかなスケジュールは、平成23年3月末運動場の仮設校舎へ移転、4月旧校舎解体、6月地鎮祭、翌24年7月新校舎完成と約1年半がかりの大工事の予定でございます。新校舎は5階建て、エレベーター付きで、総延床面積は旧校舎の約2倍の、広く明るい校舎となります。

三木学園本部がこのような思い切った英断を下した大きな理由のもう一つに、今春の本校の進学成績が、東大26名合格、国公立大学医学部医学科48名合格と過去最高となり、校舎新設を機に、今後の更なる躍進を期待したいという本部の強い願いがあります。本校としましても、この岡山白陵を更に発展させ、将来への盤石の基礎固めをしなければならないとの決意を新たにしているところでございます。今年度より本格的に全面公開とした文化発表会、毎年多数の保護者の応援のもと大きな盛り上がりを見せる運動会を中心とした多くの学校行事を核として、生徒諸君が友と共に歓声をあげ、共に泣き笑うなかで友情を育み、人間として一回りも二回りも成長する、このような体験が自らの将来への「夢・希望・志」を粘り強く追及するエネルギーを養っていくことを一つの基調に、若々しい情熱と熱気溢れる学園として発展していきたいと願っております。

同窓会諸氏の思い出が一杯詰まった校舎ではありますが、このような形で母校が更なる飛躍を遂げようとしていることにご理解いただくとともに、今後とも、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

26期同窓会開催

2009年12月30日午後4時半、岡山白陵高等学校26期生の第2回同窓会は、バイオリンの音色―「情熱大陸のテーマ」―で幕を明けた。

生徒約75名、馬場先生、間野先生、笠原先生、塩谷先生（塩谷先生は開始時刻を間違え遅刻、というハプニングも…）、清水先生を加えた総勢80名ほどが、会場となった岡山のライブハウスKENTOSに集合。せっかくのライブハウスということで、バイオリンを携えて帰省した同窓生が、急きょオープニングの演奏してくれたというわけだ。

間野先生の音頭で乾杯の後、たちまち「元気だった？」「久しぶりだねー」といった声があがり、盛り上がる会場。先生方もお子さんの話や現在の担当学年の話などをしていらっしゃる様子。先生方の前で堂々とお酒を飲める日が来るとは、高校生の頃は夢にも思っていなかったのに…。

しばしの歓談のあと、各クラスの幹事からの挨拶と近況報告。みんなそれぞれの場所で自分らしさを活かして活躍していることがうかがえた。結婚が決まった同窓生も！

同窓会もいよいよ終盤という頃、先生方からおひとりおひとりお話をさせていただくことになった。みんな高校生の頃に戻ったように、真剣なまなざし。なかでも、学年主任でいらっしゃった馬場先生のお

話には大変心を打たれた。

先生のおっしゃるように、岡山白陵で過ごした日々は、きっとこれからも私たちの大切な宝物となることだろう。これまで2回続いた同窓会、毎年の恒例行事となればうれしい。

あつという間の一次会が終わっても、二次会、三次会…と懐かしい思い出話に花が咲き続けるのであった。

(文責 黒川可奈子)



同窓会を開催しませんか

* 助成金をご利用いただけます *

「学年同窓会を開きたいな〜」「最近みんな会ってないな〜」といったお声にお応えし、同窓会が学年同窓会を応援いたします。助成内容につきましては、下記の通りです。

助成内容

- 対象者** 岡山白陵高等学校卒業生
条件 同窓会の開催
 (学年単位・クラス単位どちらでもOK！)
助成内容 ①写真と報告を送って下さった幹事の方に1万円をお送りします。
 ②宛名タックシールの希望があればお渡します。(※別途有料)

同窓会案内の費用

同窓会案内につきましては、管理委託会社の小野高速印刷株式の発送代行も可能です。
 ハガキの印刷から、宛名シールを貼って発送も行えます。
 ※小野高速印刷に発送の代行をしてもらう場合は、別途有料になります。

開催後は、写真と400字程度の報告をお願いします。ぜひ、次号の会報に掲載させていただきたいと思っております。ドンドン同窓会を開いてくださいね。

新校舎完成予想図

我が母校、岡山白陵の校舎も35年を経て老朽化し、手狭となってきました。国や県からの耐震化要請に対応することも踏まえ、思い切って新築建て替えをすることになりました。良くも悪くも思い出の詰まった校舎がなくなってしまうのは、心寂しい思いもありますが、母校の更なる発展を願いたいと思います。

新校舎概要…鉄筋コンクリート 5階建
延床面積 約7,200㎡ (現在3,598㎡)
工期…平成22年12月～平成24年7月
(旧校舎解体・撤去は23年4月開始)



活躍する卒業生

北 詰 塾

北詰 淳己 (4期生)

ATSUMI KITAZUME



4期生の北詰です。現在、長男が岡山白陵に在籍しており、私自身、碧翠寮の保護者会会長を務めております。長男は今高3ですので、2月になれば私自身2度目の卒業式に臨むこととなります。

私は現在、兵庫県の西脇市で中高生を対象に学習塾を経営し、自ら英語の教鞭を執っております。特に志の高い生徒には岡山白陵を薦め、近年は毎年生徒を送り込んでいます。岡山白陵の素晴らしい点は、進学実績や優秀な先生方は勿論のこと、社会に出て通用する人材を育ててくれるところです。その代表例の一端が挨拶。今のご時世、人間関係が希薄になりがちですが、岡白へ行くと、生徒達は皆元気がよく「こんにちは!」と挨拶してくれます。挨拶なんて簡単なことではあるのですが、これがなかなか難しい。勉強も基本が大切ですが、挨拶こそ人間関係の基本。岡山白陵での生活を通じて挨拶を始めとするしっかりとコミュニケーション能力を養い、それを礎に社会へと大きく羽ばたいていって欲しいと、後輩達には願うばかりです。

岡山白陵へ通えるのもあとわずか。現役の頃より寂しくて仕方ないのが正直な気持ちです。今後もできる限り岡山白陵と関わりを持ちたい、私の切なる気持ちです。

弁 護 士

山脇 康嗣 (18期生)

YASUTSUGU YAMAWAKI



「詳説 入管法の実務」と題する法律専門書を、新日本法規出版から平成22年11月に刊行しました。

一生の財産

18期の山脇康嗣です。東京で弁護士をしています。弁護士業務は、究極的には、利害対立を調整する仕事です。利害対立は様々な価値観や見解の相違に基づいて発生している以上、原因を探り、解決策を導くためには、人間一人ひとり異なる価値観を有しているということ、身をもって理解していることが必要です。そして、特に交渉の場面や最終的な落としどころを探る場面では、事件関係者の人間洞察も非常に重要となります。このように、弁護士業務には、価値観の相対性の理解及び人間洞察が必須となるわけですが、私の場合は、これらのほとんどを、極めて多くのそして濃密な人間関係の中で生活をした岡山白陵における6年間の寮生活によって得たと考えています。また、常に紛争事案を扱う弁護士は、ストレス耐性が強くなければ到底やっていけません。因太い私のストレス耐性は、相部屋でプライバシーは存在しない、真冬でも水道から湯は出ない、消灯後は冷暖房も消される、毎朝どれだけ寒く体調が悪くても鬼の点呼がある、悪さをすれば容赦なく殴られるという、今から考えれば超スパルタ式の生活によってこそ得られたものです。そもそも、このような環境で育っていなければ、司法試験も合格できていなかったかもしれません。

弁護士としての取扱い業務は広範であり、依頼者層も上場企業から個人まで多岐に渡りますが、趣味的な(?)業務として、私が昔から好きだった映画・ドラマの法律監修や取材協力も手掛けています。今まで担当した作品には、映画「ハゲタカ」や土曜ワイド劇場がありますが、撮影現場で、憧れの俳優と会話できることは、ミーハーな私には、大変心弾む出来事です。

現在、弁護士として、多忙ながらも充実した生活を送ることができているのは、人格が形成される思春期を過ごした岡山白陵での6年間によるところが大きく、岡山白陵で過ごした日々は私の一生の財産です。これから、様々な形で、恩返しができればと思っています。

(医)青木内科小児科医院 あいの里クリニック

山本 道代 (8期生)

MICHIYO YAMAMOTO



知られざる訪問歯科診療の世界

現在、私が勤務しているのは介護老人保健施設に併設のクリニックである。平成10年4月に入職して、歯科を立ち上げて自分はここで何をすべきか模索しながら12年目が終わろうとしている。普通の外来診療ももちろん行っているが、当院の置かれている

環境の影響で患者の大半は後期高齢者である。したがって、何らかの全身疾患の既往がある。ついこの間、とある総合病院で訪問診療を行った患者が結核病棟に入院となった。主治医からその旨を告げられ、「そういえば、3年ほど前ガフキー9(相当結核菌を排菌している!)の患者も先生でしたねえ」と答えたら「その節は... 歯科の先生ってリスク高いねえ」と言われた。保健所からの定期連絡と胸部レントゲンからやっと思われたら、またか、いや今回は接触時間が短かったのでお咎め無しであった。

あるときは、認知症のおばあさんに「これは私の歯じゃねえ!」と完成した入れ歯を放り投げられ、運悪く開いていた窓から外へ落ち、植え込みの中を探したこともあった。トイレが詰まったと掃除をしたら入れ歯が出てきたと施設の職員から言われたこともあった。洗濯機が変な音がすると思ったら、ポケットに隠していた入れ歯に気づかず洗ってしまい壊れたとか... 話せばいろいろあるが、要するにごくごく一般的な歯科医院ではなかなか無いようなことが頻りに起きている。

歯科の診療には、様々な器具と材料が必要で、訪問する際にはちょっとした旅行に出かけるくらいの荷物になる。明るいライトも無く、無理な姿勢をとらずにできる診療チェアも無い。診療室に比べると非常に不利な条件である。当然治療内容には限界もある。それでも希望する方は多い。癌の末期の方に入れ歯を作り、亡くなるまでの1ヶ月ではあったが「おいしいものが食べられた」と言っていたことがあった。脳梗塞の後遺症で、上手に食べられなくて肺炎を繰り返す方のリハビリでカラオケをして、「こんなに明るい顔は久しぶりに見た」と家族が喜ばれたこともあった。そうかと思えば、認知症の大柄な男性宅へ訪問した時のこと。「暴れて車椅子から落ちたら乗せれんから!」と妻が一言、何をするかと思ったら腰紐だか何かで車椅子にぐるぐる縛り付けてしまった。車椅子ごとひっくり返るのではないかと思うくらい抵抗されながらも、入れ歯の型を採ったなんてこともあった。

決してふざけているわけではない。すこぶる真面目に診療に取り組んでいる。本に書くわけにもいかず会報に書いてみたが、これもまた何人もの命を救った神の手を持つ脳外科医と同様(???)現実なのである。

文部科学省

岩岡 寛人 (25期生)

HIROTO IWAOKA



職場にて



不夜城がたちならぶ霞ヶ関

岡山白陵の先生方・諸先輩方、ご無沙汰しております。「活躍している」などとは恐縮ですが、寄稿の機会を頂戴し光栄です。

私は今、文部科学省で勤務しています。今年の3月までは生涯学習政策の企画・立案に携わり、4月以降は加速器を使った世界最高性能の大型実験施設を使った研究の推進という浮世離れた仕事をしています。

霞が関での仕事はとてもやりがいがありますが、生産性の低さなど課題は山積みです。中でも最大の課題は、政策立案の過程を「体系的に」開示しない点だと考えています。

政策を立案したときの根拠や論理展開、残されている不確実性を誰もが検証できる形で整理して開示できていないので、研究者等国民が政策研究に参加できず、国民全体での実質的な政策議論や政策立案手法の標準化が進んでいません。政策立案は政治家と役所の閉鎖的な営みのままです。

こんな問題意識から、経営学やロジカルシンキングの手法を政策立案にも応用して、オープンで論理的な政策立案の方法を体系化して発信するのが私の夢です。平日は我が子の顔も見られないくらい忙しいですが、岡白で培った「cool head, warm heart」そして「銀河を震撼させるぐらいの仕事がしたい」という一念を胸に日々職務に邁進しています。

岡白に関わる全ての皆さまのご多幸をお祈りします。また皆さまにお会いして、熱い話ができるのを楽しみにしています!

11期が語る

同窓生の方が訪れると職員室にはいつも笑顔が溢れます。「おお、元気か?」「今どうしてるん?」。昨冬、11期生の大野恵介さんと宮下晋一さんが来校されました。お二人の恩師、大森教頭先生や長野先生、水田先生を含めての話はいつまでも尽きません。今号特別企画「11期を語る」はその時の模様をお届けします。

堅実な人生

大森 「宮下も、堅実な人生歩んどるよな。」
 宮下 「堅実と言ったら堅実ですね。」
 大森 「今、西脇中学校何年(目)かな。」
 宮下 「4年目です。」
 大森 「4年目か。今日は、こんな時間(夕方5時)にきてええんか?」
 宮下 「今日ねえ、懇談やったんですよ。今、懇談してる時期なんです。3日間。たまたま2時すぎから空けて、こいつ(大野)が行くって言うから、あと全部振り分け直して…」
 大森 「(心配そうに) それ、途中から出てもええの? 5時までおらないかんとか。」
 宮下 「(胸を張って) それはもうやることやったから大丈夫です。」
 大野 「そういうときは違うんや。今日は全部(懇談が)あったけど、キャンセルしてここにきましたぐらい言うたらええ。」
 一同 (笑)
 宮下 「そうなんです。もう乗りこえてきたんですよ。1日17人も懇談してね、へろへろになりながらね、たどりつきました。今日(笑)。」



多かった11期生

大森 「あの時、すごい人数多かったよ。(中学の時は)100人ぐらいおってな。」
 大野 「僕らですか? 正確には99人ですね。」
 大森 「で、2クラスだったら、49と50(で教室がいっぱい)やから、いきなり3クラスにした学年が11期生なんや。」
 大野 「上(=10期)は2クラスでしたっけ?」
 大森 「そうやで。その次もまた2クラスやし。」
 大野 「ええっ? 下、3(クラス)ですよ。」
 大森 「いや、そんなことないって。14(期)と15(期)は非常に少ない。12(期)も13(期)も2クラスやで。ずっと当分2クラス。11(期)だけ3クラスで。」

「あの頃僕悪かったんです」

大野 「あの頃僕悪かったんです。」
 大森 「大野、中学時代サッカー部やったよな。」



大野 「いや、あれ最後の1年だけです。」
 大森 「最初、なんやったん。」
 大野 「ずっと野球部。中2…中3の夏まで野球部だったんです。あの時の(顧問は)、松本先生。ええ人やったけど、僕らね、めちゃめちゃ悪くて、野球って、先生がノックしてくださいますやん?で、ふつう横にキャッチャーが(いて、そいつが)先生にボールを渡して、(それを先生が)ノックしますやんか。で、取ったらキャッチャーに投げますやん?(それを僕らは)全部、先生に投げますねん(笑)。」
 一同 「危ない危ない(笑)。」
 水田 「中1やろ?」
 大野 「中2です。中2中2。」
 宮下 「(野球に)かこつけて先生に(いたづらしてたんだ)……」
 大森 「なんでそんなに…」
 大野 「(しみじみと)あの頃、エネルギー余ってたんでしょねえ。」
 一同 (笑)
 大野 「僕ら中学でそういう卒業しましたから…(笑)」
 水田 「とり聞んだら、何するんかわからん(生徒だった)(笑)。」
 大野 「先生、それ僕だけ違いますよ!!!」
 宮下 「そうそう、あのキャンプファイヤーは燃えとったなあ、みんな(笑)。この瞬間のために生きてきた、みたいな。」
 水田 「あのキャンプファイヤーは、『わっ』と取り囲んだら、もうなになるかわからん。」
 大野 「いやあ、ほんまねえ、なんかエネルギーあまりまくってたんですよ。」
 宮下 「デコレーションいうて(立体の像みたいなもの)作って、それに命かけとったわけ。みんな、で、最後みんなでそれを燃やして、夜キャンプファイヤーして、盛り上がる…」
 大野 「そうそう、僕ら中3のときはそんなんで、先生も一緒に踊るとか言いながら、『先生、踊ろうぜ! 踊ろうぜ! 踊ろうぜ! 踊ろうぜ!』(って先生を囲んで踊るついでに)バコバコバコ…(と愛情を込めて先生にぶつかったりどついたり)(笑)」
 長野 「めちゃうちゃや(笑)」
 大野 「で、先生のほうが怒って『なんじゃーおまえ!』とか言い出したら、」
 宮下 「もう、みんなしゃーっと散って…(笑)」
 大野 「三本先生とかもそしたら、『おまえらそんなやったらどうなるんかわかってるんかー』って叫んでましたよ。忘れもしない(笑)。」
 大森 「今の生徒はそんなおらんわ(笑)。」
 大野 「でもね、そんな次の日とかは先生も(そのことについて)ぐちゃぐちゃ言わんとケロっとしてなあ(笑)。」
 水田 「(うなずきながら)別にあれでどうとかなかった。」
 大野 「なかったですね。お互い。いや、先生のほうもエネルギーすごかったんです。若かったから。せやから、やらしてもらった(笑)。」
 大森 「ほんまに、おもしろい学年やったわ。(笑)」

人生ボクシング

大野 「(僕の今いるブラジルは)英語は通じないですよ。」
 長野 「よう、それで最初行ったなあ。すごいなあ。」
 大野 「根性ありましたねえ。」
 大森 「今普通に会話できる?」
 大野 「会話できますよ。一応それで仕事してます。」
 大森 「それ、すごいな。」
 大野 「やっぱり、行ったらなんとか。そのかわり、そのぶん、あの、岡白時代の500万倍ぐらいどつかれましたけどね。いろんな意味で。」
 一同 「ああー。」
 大野 「その、ほんまに直接じゃないですけど、傷を負ったという意味では、悲惨でしたよ。そりゃ。」
 長野 「へえ、そう。」
 大野 「そりゃもうちょっとシャレなってない…。いまだに思い出すと、あのころちょっとねえ。死にたくないけど、朝起きたらそのまま目が覚めなかったら良いのにとおっしゃいましたよ。」
 一同 「ああー。」
 大森 「最初農場だったでしょ。農場のときには、日本の資本がだいぶ入るとるわけだから……」
 大野 「資本は日本ですけども、社長と、もう一人取締役と、僕だけで。あと全部ブラジル人です。」
 大森 「それ全員ポルトガル語でしゃべるわけ?」
 大野 「そうそうそう。もちろん日常会話の雑談はできますけども、仕事なんかになったら…会議とかでも、わーってポルトガル語でやられて、わからない顔してたら『あのバカ! 日本から何しにきたの? みたいな感じでねえ。完全に人格否定みたいなもんで、自分の存在意義なんて全くなかったような状態からスタートしましたからね。』」
 大森 「うーん。で、勉強したんか? そのポルトガル語を勉強して、あるいは仕事してるうちにだんだん覚えていって…」
 大野 「仕事してるうちにですええ。なんとか。毎日けんかしてるうちに……」
 大森 「けんかしてるうちに覚えていったん?」
 大野 「そうですねえ。」
 長野 「ぜんぜんしらん言葉で行ったんやろ?」
 大野 「まあ、スペイン語はちょっとしゃべれたんですけどね、でも日常会話程度で。」
 長野 「そのスペイン語はどこでやったん?」
 大野 「ボクシングでメキシコにちょっと行ってたんですよ。」
 大森 「メキシコで修行してたよな。それが半年ぐらいやったな?」
 大野 「そうですね…。3、4ヶ月ぐらい。」
 長野 「メキシコに行くときは、スペイン語、話せて行ったん?」
 大野 「あのころのほうが、根性ありましたねえ。」
 長野 「それも(言葉)無しで行ったわけ?」
 大野 「あんときはもう、ボクシングも(行き詰まって)、なんとか自分も新しいこと学ばんと終わるなあって思ったから…」
 長野 「大変だったやろー?」
 大野 「いやいやいや…。どうしようもなくなったら、なんとかしようと思って…」
 大森 「危ない人生の渡り方しとるな。」
 大野 「危ないんじゃないかって、かっこいい言い方したら、上をもっとみようと思ったら、それぐらいしないとやっぱり、だめなんじゃないかなー、と思ったんです。」



長野 「一つ間違ったら、刺されるかもしれないのはなかった?」
 大野 「いや、ないですねー。それはねー、僕はね人には恵まれてるんですよ。一切ないですよ。」
 大森 「でも、メキシコは怖いやろ?」
 大野 「メキシコよりサンパウロのほうが怖いですよ。」
 大森 「ああ、そうか。やっぱり鉄砲は普通にあるわけやろ。」
 大野 「サンパウロ危ないですよ。しょっちゅう(企業の)駐在員でもどんくさいやつは、けっこう車でやられたりとかしてますけど。」
 長野 「なに? その、車でやられるって?」
 大野 「いや、もう車で信号待ちしてたら、いきなり前にきて、『出せ』とかね。もしくはガラス、簡単に割れるんですよ、がらがらーって割れて、女の人の助手席に置いてあったハンドバッグを取られるとか。そういうのはしょっちゅうです。日常茶飯事。」
 大森 「日本がいかにか治安が(いいかということだね)…」
 大野 「ほく、今日も電車乗るときにね、切符買わないですか。ついつい人に財布を見せようように…(財布を隠すフリ)」
 水田 「ああ、はいはいはい。」
 大野 「気づいたら、ぼーっとしてて、『ああ、やばいなあ1万円札なんかみせたらやばいかなあ』って思ってこっそり1万円札を券売機に入れて…(そうしたらお釣りが)ジャラジャラーってでてきて、『こんなにいきなりジャラジャラ出てきたら、横から取られたらどないしよう!』とかなんとなくそういう意識でいうものが(動くんですよ)…」
 一同 「ああ。」
 大野 「それが1週間2週間してくると、だんだん日本人っぽくなってきて、『やっぱ日本って平和でええなあ〜』って思うようになってくるんですけど。最初の1週間くらいは、まだ頭はブラジルですよ。」
 大森 「……でも、大野の話聞いてると、なんかずっとボクシングしてる感じやな。感覚的には。いや、ボクシングそのものじゃなくて。ずっとなんかこんな感じで。人生ボクシングみたいな。」
 大野 「そんな感じになっちゃってますね。ちょっとね。」
 長野 「まあ、一番遠いところで活躍してる卒業生やな。」
 大野 「いや、活躍はまだしてないですけど。まあもうちょっとしたら少しは…」
 大森 「まだまだまだまだとずっと言い続けるんやろな、大野はな。」
 大野 「いやいや、ほんまにしょぼいんでね。まだ。」
 大森 「いや、しょぼいとは思わんけど。まだこんなもんじゃないってこと?」
 大野 「そうでしょう! そりゃここからでしょう!!」

力強い言葉で終わった今回の対談に、これからもアグレッシブに活躍を続けて行かれるだろう姿が垣間見えました。大野さん、宮下さん、楽しいお話をありがとうございました。なお、今回の掲載に際しては大野さんから、「卒業生の方がブラジルに来られたら、是非お声をお掛け下さい。」とのコメントをいただきました。「オカハクという『縁』を大事にしたい」と。日本で、そして世界で、「オカハクという『縁』」が広がっていくといいですね。

母校だより

ディベート甲子園 中学の部 優勝!

今年も、様々な方面で在校生の華々しい活躍が繰り広げられています。中でも、8月7～9日、東京・文京区の東洋大学で行われたディベート甲子園では、中学の部で優勝、高校の部でもベスト16に入るとい、素晴らしい成果を上げました。実際に全国大会で熱弁を振るった選手皆さんに、感想をお聞きました。

中3 藤井 宥理 (質疑・第2反駁)

ディベートをやった変わったことは、仲間を思いやる気持ちです。違うパートがいかに難しいかや、サポーターの大切さなど、学ぶことが出来ました。みんなが気持ちを一緒にしてつかむことが出来た優勝でした。

中2 真田 知佳 (第1反駁)

ディベートをする上で一番苦労するのは、審判に正しく伝えることです。自分たちのスタンスや相手と自分たちの主張の違いなどを正確に短い言葉で伝えることは、私達の目標でもあり一番難しいことでもありました。

中3 池田 遼 (質疑・第2反駁)

ディベートの楽しさは、自分たちの考えをもとにスピーチをすることだと思います。試合を何度も重ねることで、このことを実感できました。また、相手とかみ合った議論ができることもディベートの楽しさの1つです。

中2 佐々木 瞳子 (立論)

優勝後の嵐のような日々も過ぎ、新メンバーも加えた練習が始まりました。「もう連覇しかない」という先生の言葉をしっかりと受けとめつつ、岡山白陵の名に恥じないような、わかりやすいディベートをめざしていきたいです。

既に来年の夏に向けた熱くひそやかな戦いは始まっている様子です。今後の活躍にも、期待できそうですね。

知を結集 主張熱く

岡山白陵 初優勝 洛南

第15回全国中学・高校ディベート選手権(ディベート甲子園)が8月7～9日、東京・文京区の東洋大学で開かれた。中学の部の岡山白陵(岡山)が、高校の部の洛南(京都)がそれぞれ初優勝を飾り、全国大会で初優勝を手にした。全国8地区をそれぞれ代表して出場した中学24校、高校12校による激戦の模様を紹介する。

第15回全国中学・高校ディベート選手権



大会のルール

1チーム原則4人。特定の論議について、肯定、否定の立場に分かれ、制限時間内で主張を述べ合う。肯定、否定のどちらに立つかは試合前の抽選で決定。勝敗は、3人または5人の審判が多数決で決める。

※この記事は読売新聞社の許諾を得て転載しています (読売新聞2010年8月29日付)



左7人が高校生メンバー、右6人は中学生メンバー

地理オリンピック7位金賞受賞!

高3 岡本悠志君

今年の春に行われた科学地理オリンピック日本選手権2010において、高3岡本君が7位入賞という快学を成し遂げました。この大会ではマルチメディアテストと呼ばれるスライドで提示された地図や図表などを使った問題に答える客観式テストと、資料などの読解や意見の表明を中心とした記述式テストが出題されます。そのうちの約2割は英語で出題されます。この大会で、見事な成績を収めた岡本君に、今回の受賞についての感想を聞きました。



高一のとき、先生から地理オリンピックに挑戦してみないか、と誘われました。その時は、英語で出題される問題もあり高校生全体が受けるその大会で通用する自信がなかったため、断りました。しかし、同じく誘われた同学年の人が地理オリンピックで表彰されたのを見て、自分でも太刀打ちできるかもしれないと思いました。そこで一年後、高校生活を何も活躍しないまま終わるのはつまらないと思い、記念受験のつもりで受けました。試験は少し難しかったので、受賞はしないだろうと思っていたところ、結果は7位と金賞をいただくことができたので、初めは耳を疑いました。今では、これは岡山白陵の日頃の授業レベルの高さを示しているのだと思います。金賞をいただいたことで、自分自身に自信ももて、非常によい経験となりました。

あつ晴れ 岡山国文祭



国民文化祭実行委員会会長賞を授与された上田一奈太君



受賞者と保護者の方々、会場にて

今年、岡山県では10月30日から11月7日まで、国民が日頃の成果を全国的な規模で発表する文化の祭典、「あつ晴れ!岡山国文祭」が開かれました。母校岡山白陵の位置する地元赤磐市では永瀬清子にちなんで「現代詩」の大会が開かれましたが、せっかく地元開催の国文祭なのだから是非とも参加しようとのことで、岡山白陵からも、事前に募集された現代詩のコンクールに全中学生が参加、優れた賞を多数受賞しました。中でも、国民文化祭実行委員会会長賞を受賞した中学2年の上田一奈太君は、10月31日に行われた現代詩の大会で自己の作品を朗読、当日ゲストとしてこられた谷川俊太郎さんに、「比喩が面白いね」など、評を受けました。その、とっても岡山白陵生らしい(?)上田君の詩を紹介します。

受験

ここはどこだろう。物音一つしない。辺りには鎧を着た武士が身をひそめている。ほら貝の音が聞こえた。その瞬間、いっせいに刀が動き出す。知らない者が知らない者を倒し、知らない者が倒されていく。中には、自分をおそってくる者もいる。その人も知らない者である。そんな時間がしばらく続いた。すると、またほら貝の音が聞こえた。疲れはてた自分の体を見て、我にかえる。そこには、黒くなった紙と、散乱した筆記用具があったのだ。

第25回 国民文化祭・おかやま2010文芸祭 現代詩 中学生の部

- 国民文化祭実行委員会会長賞 上田一奈太
- 岡山県知事賞 笠原 成歩
- 第25回国民文化祭岡山県実行委員会会長賞 足立 和
- 日本現代詩人会会長賞 吉岡 志織
- 日本詩人クラブ会長賞 大月 智史
- 岡山県詩人協会会長賞 守澤亜梨沙
- 長瀬 清子賞 水井直カタン

生徒の活躍

- 平成22年3月27日
 - 科学地理オリンピック日本選手権大会 2010
 - 金賞 岡本悠志君
 - 銀賞 1名
 - 銅賞 2名
- 平成22年4月25日
 - 第57回 中国高等学校柔道大会 岡山県予選会
 - 男子個人 60kg級 第3位
 - 90kg級 第3位
 - 女子個人 48kg級 第3位
- 平成22年6月5日
 - 第49回 岡山県高等学校総合体育大会 柔道競技 男子団体戦 第3位
- 平成22年5月9日
 - 第40回 岡山県高校将棋選手権大会 兼 第46回 全国高校将棋選手権大会岡山県予選会
 - 男子団体戦 B組 優勝
 - 男子個人戦 B組 第1ブロック 優勝
- 平成22年7月7日
 - 第21回 伊藤園お〜いお茶新俳句大賞 都道府県賞 1名 佳作 6名
- 平成22年7月18日
 - 中国四国地区 中学・高校ディベート選手権 (第15回 ディベート甲子園中国四国地区予選)
 - 高校の部 準優勝 岡山白陵高等学校 全国出場ベスト16
- 平成22年7月20日
 - 第27回 NHK杯全国中学校放送コンテスト 岡山県予選会
 - アナウンス部門 優秀賞 1名

- 平成22年7月24日
 - 第48回 岡山県中学校総合体育大会 兼 岡山県中学校柔道選手権大会
 - 男子団体 第3位
- 平成22年7月27日
 - 第48回 岡山県中学校総合体育大会 兼 岡山県中学校テニス選手権大会
 - 女子団体 第3位
- 平成22年8月
 - 第34回 全国高等学校総合文化祭
 - 放送の部に高3 渡邊真衣さんが参加
- 平成22年8月9日
 - 第15回 全国中学・高校ディベート選手権 (ディベート甲子園)
 - 中学の部 優勝
 - 高校の部 ベスト16
- 平成22年8月10日
 - 第51回 岡山県吹奏楽コンクール
 - 高校小編成部門 銀賞
- 平成22年8月20日
 - 第10回 全国中学校総合文化祭 福岡大会
 - 褒賞状
 - 中2 小野紋弓さんが県選抜メンバーとして参加。演劇発表を行った。
- 平成22年8月29日
 - 第56回 岡山県児童生徒書道展
 - 特選 5名
- 平成22年10月7日
 - 平成22年度 岡山県統計グラフコンクール
 - 銅賞 1名
 - 入選 7名

- 平成22年10月7日
 - 平成22年度 岡山県統計グラフコンクール
 - 銅賞 1名
 - 入選 7名
- 平成22年10月24日
 - 第20回 私たちの身のまわりの環境地図作品展
 - 日本国際地図学会賞 1名
 - 優良賞 1名
- 平成22年10月30日
 - 第54回 日本学生科学賞岡山県審査
 - 奨励賞 1名
- 平成22年11月6日
 - 第60回 岡山県高等学校柔道優勝大会 第11回 中国高等学校柔道新人大会 岡山県予選会
 - 男子団体 第3位
- 平成22年11月7日
 - 平成22年度 岡山県高等学校新人柔道大会
 - 男子個人戦 90kg級 第3位
 - 女子個人戦 52kg級 第3位
 - 57kg級 第3位
- 平成22年11月8日
 - 平成22年度 岡山県中学校秋季柔道大会
 - 男子個人 90kg超級 第2位
 - 女子個人 57kg級 第2位
- 平成22年11月14日
 - 第34回 岡山県高等学校総合文化祭 演劇部門 ならびに 第60回 岡山県高等学校演劇発表会
 - 第3位

平成22年度進路実績

国立大学	合格者数
東京大学	26
京都大学	7
岡山大学	17
北海道大学	3
東北大学	2
名古屋大学	4
大阪大学	6
九州大学	6
東京工業大学	1
一橋大学	1
神戸大学	4
鳥取大学	1

国立大学	合格者数
島根大学	1
広島大学	2
山口大学	1
香川大学	8
愛媛大学	2
徳島大学	3
佐賀大学	2
滋賀医科大学	1
大阪市立大学	2
他国公立大学	17
防衛医科大学	11
国公立大学計	128

私立大学	合計
早稲田大学	25
慶應義塾大学	22
中央大学	11
東京理科大学	9
同志社大学	20
立命館大学	11
関西大学	6
関西学院大学	23
他私立大学	87
私立大学計	214

住所変更のお願い

結婚・転居・転職等で住所・氏名・勤務先を変更された方は、同封のハガキにて事務局までお届け下さい。変更届のない場合は会報・同期会のご案内等が出来なくなることがあります。

また、会報が届いていない方は住所変更メンテナンスがなされていない可能性があります。卒業生のご友人等でそのような方がいらっしゃいましたら事務局までご連絡下さい。

同窓会名簿管理業者 小野高速印刷(株)でも直接受けつけることもできます。

E-mail dousou@info.co.jp

原稿募集

事務局では、今後も会員の方々のいろいろな情報を掲載し、会員相互の情報交換の場にしていきます。



- ・同期会、クラス会、OB会の報告
- ・旅行記、修学旅行、入学式、高校時代の思い出
- ・卒業生のご活躍の方々、お店の紹介
- ・同期会等の開催告知 etc...

まずは、同窓会事務局まで、郵送又はメールでお寄せ下さい。尚、紙面の都合上、掲載できない場合もございますので、ご了承下さい。

岡山白陵同窓会

〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588 TEL: 086-995-1255

学校ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/> 同窓会ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/dk>

E-mail dousoukai@okahaku.ed.jp

編集

Editor's note

後記

今回も沢山の方のご助力を得て、無事にこの同窓会報を同窓生の皆さんの許にお届けすることができました。

同窓会報の作成にあたっていると、実にいろんな場所、様々な世界で活躍しておられる

方と連絡をとる機会に恵まれます。自分の知らない世界のなんと広いことよと嘆息しつつも、それはとてもワクワクすることでもあります。

また、編集作業のただ中で飛び込んできた新校舎建築のビッグニュースには、自分が過ごした校舎ももう建て替えを迎える時期となったかと、隔世の感を禁じ得ませんでした。母校がまた新たな時代に突入しようとしているという期待も同時に湧き起こってきました。

常になつかしくて常に新しい場所、それが私にとっての母校岡山白陵だと思う今日この頃。皆さんも、なつかしい友達に、先生に、時に連絡を取ってみませんか。新しい発見があるかもしれません。

補 正 表

印刷中に間違いが判明した為、お手数ですが、修正を
お願い致します。

11頁 岡山国文祭 右のブロック 最下段
(誤) 長瀬清子賞 → (正) 永瀬清子賞